

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600891		
法人名	株式会社 無限倶楽部		
事業所名	グループホーム幸福の里あすか		
所在地	苫小牧市字錦岡647番地14		
自己評価作成日	令和6年2月14日	評価結果市町村受理日	令和6年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JivkyosyoCd=0173600891-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和6年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケア理念を念頭に、入居者一人ひとりが自分らしく生活していけるように寄り添いながら支援しています。外部研修などにも参加し、知識だけではなく、技術などもしっかり身につけ、より良い支援をしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム幸福の里あすかは、幹線道路を挟んで海を臨む場所に位置しており、居間の大きな窓からはゆったりと海を眺めることができます。事業所は開設当初に定めた理念を実践し、利用者地域との繋がりを維持しています。家庭的な環境の中で利用者が普段通りの生活を送れるよう、その人らしさを尊重した支援を提供しています。職員全員が身体拘束廃止委員会に参加し、身体拘束の禁止に関する教育だけでなく、人権の尊重についても学んでいます。また、看取りに関する指針では、職員の生死観教育を行い、利用者の人生を支える共通の理解のもとに、日々の支援を行うこととなっています。コロナ禍において、地域交流や外出機会が制限されている状況下であっても、季節の行事や誕生日会などを実施し、「あすか祭り」も開催しました。運営推進会議の参集再開や面会の緩和などを通じて、着実にコロナ禍前の交流を取り戻しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに ○ 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの出入口に掲示し、いつでも確認して意識できるように日々の支援に努めている。	事業所の開設時に、一人ひとりのその人らしさを尊重した支援を行うことを目標に理念を定めています。利用者のその時の能力を把握し、職員は認知症介護の基本を踏まえた支援を実施できるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為、積極的な交流はないが、運営推進会議に出席された方に挨拶程度の交流はしている。	令和5年度は感染予防のため地域交流が制限されましたが、今後は町内会行事の参加再開を予定しています。利用者は地域に出かけ、敬老会に参加したり、婦人部が雑巾を縫いに訪れるなど、相互の交流を積極的に行う予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市からの依頼を受け、近くの小学校でキッズサポーター養成講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より対面での開催を再開し、資料を基に質疑や意見交換等を行っている。	営推進会議には、行政や地域などからの参加があり、避難訓練などの後に会議を開催するなど、利用者の様子や事業所の取り組みをよりよく理解してもらえるように工夫しています。また、議事録も家族に送付し、情報を共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	人員体制や補充を含め、市の事業へ参加したり、何かあれば問い合わせで相談している。	市からの講師派遣の依頼を受け、地域での認知症啓発に取り組んでいます。また、職員の雇用に関しては、外国人採用など近隣の状況を検討した上で導入の可否について相談し、適切な運営を行うこととなっています。	事業所が立地する場所は海に近く、津波の恐れがある場合には内陸方向に避難する必要がありますが、線路があるため、津波到達時間までに避難することが非常に困難であることが挙げられます。行政とも相談しながら、地域の問題として話し合いを継続していくことを期待します。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の中で、現状のケアについても話し合い、何が拘束にあたるかなど確認し拘束のないケアに努めている。	身体拘束適正化委員会は職員全員が参加し、年に4回実施しています。そのうち2回はユニット合同で行い、質疑ではより身近な事例を交えて論議しています。また、グレーゾーンと考えられる支援についても取り上げ、どのように対応するかの検討を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスなどでも話し合い、意識して支援し、定期的に勉強会を行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束適正化委員会の勉強会での題材として取り上げ、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には面談も行き、契約時にも改めて説明し同意を得て契約している。また改定時も書面での説明にて同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話・メール等のツールや、面会時などに意見を頂いた時は、内部で話し合い反映できるように努めている。	家族から面会制限について要望があった際は、本部と協議し、結果を家族に伝えていきます。また、タブレット端末を使用したりリモート面談を取り入れるなど、意見を受けた際は迅速に対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	即時可能なことはすぐに柔軟な対応を取り、他者の意見も聞きたい時はカンファレンスの議題に取り上げ反映できるよう努めている。	職員からの意見は管理者がまとめ、本部の承認が必要な事項に関しては、管理者を通じて行っています。職員の意見を受け、備蓄庫を作るなど、働きやすい職場作りや意見の反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト調整等で研修参加などスキルアップの為の支援を行い、勤務体制も負担がかかり過ぎないように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内が来るとお知らせをして研修への参加が増えてきている。日々の支援の中で出た疑問についても返答し技術や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍の為、今は機会がないが、姉妹施設のケアマネが来設した際は意見交換している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時などに本人や家族から話をお聞きし、本人のペースに合わせてコミュニケーションを取り、少しずつ安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時や契約時にお話を聞き、入居後もその都度お話を聞き不安軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見・要望を取り入れながら入居時ケアプランを作成し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の不安に寄り添い、本人の思いを傾聴しながら、したい事などを一緒にやり関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の話も傾聴し、本人が安心して暮らせるように一緒に考え協力もお願いしながら関係作りを努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はコロナの状況によるが、通信支援による交流は継続できるように努めている。	認知症の症状が進むことで相手との関係が疎遠にならないよう、認知症への理解も促すよう情報提供しながら関係が継続できるようにしています。本人の希望により、電話や手紙などの交流が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で関わりを持たれたり、意思疎通が難しい時などは間に入り、助け合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も一定期間は連絡を取り近況を聞きながら、相談を受けたときは出来る限りの支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動や行動などの様子を記録に取り、カンファレンスや日々の中で都度検討し支援している。	日々の生活の中で利用者の希望や思いを汲み取り、カンファレンスで計画作成者と共有しています。意思疎通が困難な場合でも、入居当初の希望、生活歴、家族の思いなどから、本人の気持ちを検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの情報や家族からも細かい生活歴をお聞きし、スタッフ間でも共有し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や記録、出勤後の申し送りにて情報を共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に意見や要望をお聞きし、ケアカンファレンスの場で話し合い、プラン評価を行い、次回プランに反映できるように努めている。	ユニットごとに介護記録などの様式を定めています。職員は担当利用者のモニタリングに参加し、3か月ごとにアセスメントを実施しています。カンファレンスでは、利用者と家族の要望を踏まえて検討し介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援の中で変わった事、気になった事などを記録し、ケアカンファレンスで話し合い情報を共有しプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出等については積極的にはしていないが、面会については対面ではなく様々なツールを使用し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身ケアの為に訪問理容は活用しているがそれ以外は行っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は毎月定期往診と在総診で診て頂き、その他は必要に応じ個別に受診か往診に来て頂き連携している。	利用者や家族の希望により、これまでのかかりつけ医を選択できます。毎月1回の訪問診療を希望することも可能です。通院は家族対応ですが、職員が同行し、利用者の症状を医師に説明するなどの支援を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護に週一度定期訪問して頂き、何かあれば都度相談し必要な対応をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族と相談しながら尊重している。他の病院に入院した時も連携を取り合い、関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針等について説明を行い同意も頂いている。重度化した場合にも、医師・訪問看護・家族間で都度話し合いを行い支援している。	医療と連携し看取りを行っています。訪問看護の看護師が職員研修を担当しています。看取りの実施の際は、本人と家族が納得のいく形になるよう話し合いを重視しています。また、職員の心のケアにも力を入れています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しそれに沿って行動している。急変時は訪問看護に連絡し指示を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、消防と設備会社に立ち合いを依頼し助言を頂いている。また、運営推進会議と日程を合わせ会議に参加される方にも見て頂き助言を頂いている。	令和5年度は、夜間と日中の火災を想定した避難訓練を実施しています。今年度は、運営推進会議の前に訓練を実施することで、様々な立場の参加者が課題を共有し、具体的な解決策を検討することになりました。また、BCP(事業継続計画)は策定済みであり、今後はブラッシュアップを行うことになっています。	事業所は津波が10分で到達する地域に位置していますが、津波を想定した避難訓練は行っていません。また、火山噴火も想定されるため、BCPに定められた訓練を実施し、その内容を家族や関係者と共有し、協力関係を強化していくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けを行い、傷つけないように配慮した支援を心掛けている。	職員には、利用者の羞恥心に配慮し、プライドを傷つけないよう心がけるよう指導しています。利用者が一人で過ごせる時間や自分専用の空間を確保することの重要性など、具体的な例を示しながら人格の尊重について職員に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが思いを表せるような環境作りを行い、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	業務優先にならないよう注意し、入居者の状況に応じ自分のペースでゆっくり過ごせるように支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装などは季節に合わせて、身だしなみも朝だけでなく、乱れた時は都度直させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスのお楽しみメニューや、行事で特別メニューを作るなど希望も取り入れて提供し片付けも一緒にしている。	食材配達を利用し、職員が手作りの食事を提供しています。また、テイクアウトのラーメンなどを取り入れたり、日々のメニューの選択肢も提供しています。利用者の食の楽しみのために、行事ごとの食事の工夫や、月間行事として職員が手作りのスイーツを提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師等に相談しながら状態に合わせて提供し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて見守りや介助を行い、歯科医に相談しながらケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立では行けず介助を必要とする方には、本人や記録を確認しながらお連れして失敗せず自分で出来るように支援している。	事業所では、できる限りトイレでの排泄を基本としています。オムツ使用時でも、まずはトイレに誘導するなど、利用者一人ひとりに合わせて快適な排泄ができるよう配慮しています。排泄パターンを把握し、さりげない誘導や、そわそわするなどのサインを見逃さないよう気を付けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬も使用しているが、水分量の調節や乳製品などを使用していくことで薬に頼り過ぎない取り組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的には昼に入浴を行っているが、訴えなどがあつた時は朝・晩にも支援を行っている。	毎日、平均3名の利用者の入浴を支援しています。また、毎日入浴する利用者もいます。入浴時には、利用者との信頼関係や本人の希望を考慮し、同性介助も行っています。入浴中は、動画配信サイトを視聴しながら歌ったりするなど、利用者が快適に入浴できるように工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせていつでも休める環境作りを行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬情を確認できるようにしている。日常の様子に変化があれば都度医療に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などはやりたいと思うことを一緒にを行い、役割を持って楽しみながら出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況を見ながら判断して、訴えがあった時には支援したいと考えている。	敷地内の散歩や買い物に出かけるなど、日常的な外出を行っています。さらに、外でのパーベキューや外気浴の機会を増やすよう努めています。また、利用者から墓参りの希望がある場合は、家族にも連絡し希望を叶えられるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己で管理している方は少額の現金を手元に置き管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族からの要望がある時は、電話での通話やテレビ電話で顔を見て話せるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間も清潔に保ち、カーテンや照明で光の調節を行い、温度・湿度を調整し環境整備をしている。	共用空間は利用者と一緒に装飾しており、落ち着いた雰囲気を演出しています。また、居間の大きな窓にもデコレーションを施し、季節感を感じられるようにしています。換気や定期的な消毒も行っており、共同生活が円滑に行われるよう、他の人の気配を感じながらも一人で過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを離して設置したり、リクライニングチェアを配置し、各々が好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく馴染みの物をお持ち頂き、自分の部屋だと思えるように気を付けている。	利用者は、自宅から使い慣れたものや大切な品物、家族とのつながりを感じられるものなどを持ち込んでいます。居室では自分の好きなことをして過ごせるよう、安全を確保しながら裁縫などの趣味の継続を支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の状態を見極めながら安心して過ごせるような環境作りに努めている。		